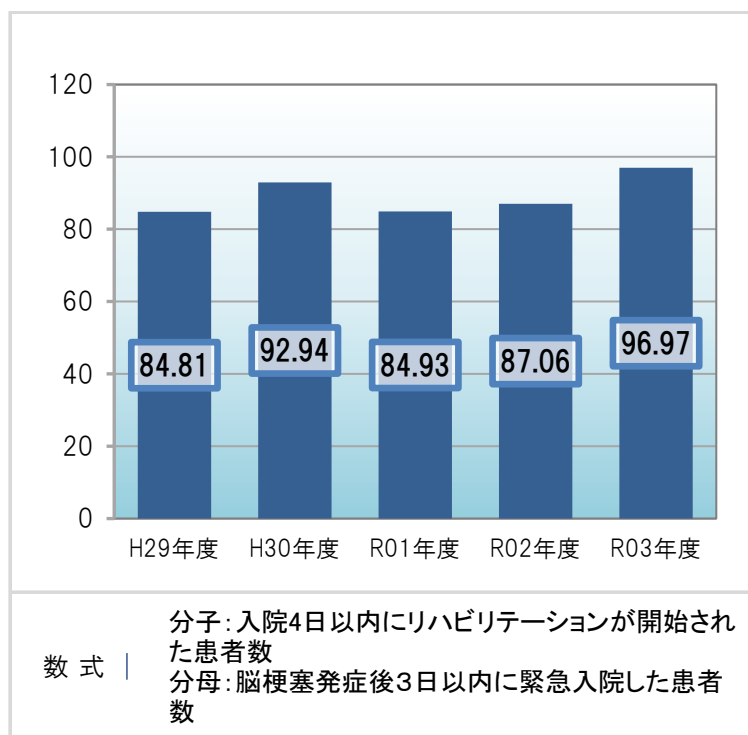


9 脳梗塞の早期リハビリテーション実施率

● 項目の解説

早期のリハビリテーションは運動機能の回復を促進することが明らかにされており、脳梗塞の診療の指針を示す診療ガイドラインでも推奨されています。脳梗塞患者の社会的復帰のためには、脳梗塞発症後速やかにリハビリテーションを行うことが重要です。早期のリハビリテーション開始が入院期間の短縮や生活の質の改善につながる可能性があることから、脳梗塞患者への適切な治療の一つとして評価されます。重症症例ではリハビリテーションの開始が遅れる傾向があるため一概にはいえませんが、数値を更に増加させるためには国立大学病院におけるリハビリテーション医療をより充実させる必要があります。

● 当院の実績



単 位 | 割合 (%)

期 間 | 年間

備考

椎骨脳底動脈不全やもやもや病の検査入院等を除いた実際に脳梗塞を発症した患者をDPCデータより抽出しています。リハビリテーション部をはじめ、関係各部門のスタッフの努力により、全国でも高い実施率となっております。

令和3年度国立大学病院平均値 78.95%

● 定 義

DPCデータを元に算出した、緊急入院した脳梗塞症例(再梗塞を含みます)に対する早期リハビリテーション実施率(%)です。

分子: 入院4日以内にリハビリテーションが開始された患者数です。

分母: 最も医療資源を投入した病名が脳梗塞の患者で、発症から3日以内、且つ緊急入院した患者数です。院内発症した脳梗塞症例は含みません。

※3日以内退院と転帰が死亡である場合は分子・分母から除きます。